

項目	番号	御意見等
1 資金不足額の補填方法・現世代と将来世代の負担バランス	1	企業債借入れを抑制するシミュレーションケースAを目指すことが望ましい。 ・ 運転資金残高については意見なし。 ・ 企業債残高対給水収益比率の設定については、数値のみで適正か否かを判断できるものではないが、吹田市は少量区画水道料金が他市よりも高くなっており、事業運営状況が悪く映るが、①資本投資への対応、②逓増度の改善、③料金値上げなどにより、水道事業基盤強化に取り組んでいる。そのうえで、企業債残高対給水収益比率350%前後の目標設定は適切と考える。 ・ 金利の上昇基調が想定される中、借入れ増は将来世代への更なる負担を増やすこととなり、現在の金利状況においては得策ではない。
	2	結論から言ってBです。 今迄と違ってこれからは企業債の利息も上がっていくし、出生率は毎年のように過去最低と言う記事を目にし、人口減も著しい中、日々の生活では 節水機能付きの家電が目につき買い替え時に店員さんもそれを勧める。 共働きや単身者は中食が多くなり、益々もって水道使用量は少なくなり、給水収益は減る一方で、反対に、人口の増加減少に関わらず管路の経年劣化で更新をせざるを得ない状況で、経費が膨らむ。 吹田市は単身者（高齢単身者含めて）が多いと思います（一概には言えませんが）。 その方たちのひと月の使用量が10～20立方迄なら、ひと月の値上げは600円程でいけますので、市民の方々に受け入れて貰いやすい額かなと感じます。 ひと月請求ならケースAでも大丈夫かなと思いますが、ふた月一回の請求は負担額を感じ過ぎる（私個人はケースAが良いです） 企業債を増やすべきではないし、先にツケを回すべきではないと思います。
	3	ケースA～ケースCについて家族構成の絵が示されていてイメージしやすい。 現世代と将来世代の負担のバランスについては、料金改定を行わずに企業債残高が将来世代へ大きく積み上がる状況は望ましくないと考えます。 一方で、現世代の負担を急激に増やすことも避けるべきであると考えます。 誰もが納得する料金改定については審議会で示された他地域との比較について、資料に加えて、適正な料金の材料を示して欲しい。 また、P15の下部に適切な費用の計上がてきていることを前提としていますが…収入、支出の根拠がわかりにくい ・ 2035年までの更新計画の優先順位が見えにくい。どの地域が先に更新されるのか、事故リスクの高い箇所の説明がない。

項目	番号	御意見等
1 資金不足額の補填方法・現世代と将来世代の負担バランス	4	企業債と料金値上げのバランスは将来世代に負担してもらうのではなく、現世代にて負担すべき。 すなわちケースAを選択すべきであると考えます（百歩譲ってもケースB）。 その理由として、月に20立米使用（スライド番号27）で水道料は月800円、月に30立米使用（スライド番号28）で月1400円増えますが、この金額は月々の生活費総額からみれば受容できる範囲内であると思われますので。
	5	蛇口から出る水をそのまま飲めるという吹田市（日本）の水の安全性、品質は世界に冠たるものです。その安全でおいしい水を1000リットル200円前後という破格の値段で、そしてほぼ制限なく購入できるということは世界レベルでは大変を幸せなことであり、このことに我々は感謝すべきであると常々思っています。
	6	メーター口径20mmの世帯が吹田市内の約90%を占めている現在、基本料金を上げざるを得ないと思います。一か月使用水量6m³までの従来料金が0円については使用量に応じた料金を回収できないものかとおもいます。
	7	現世代と将来世代の負担バランスについては、公平性の観点から負担は同等にするべきだと考えます。また、現役世代の負担を軽減するために将来世代へ負担を回す、先延ばしにするという発想は高度成長期などは合理性があったかもしれませんが、少子高齢化の現在において持続可能ではなく、負担を先延ばしにする制度設計は相応しくないと思います。 そもそも水道は生きていく上で必要不可欠な生活インフラであるため、市民自身も応分の支出を負担するのは当然で、独立採算制であるうちは市民に赤字で提供しないといけないこと自体が誤りであり、企業債は可能な限り少なくすべきです。 同時に「負担軽減」があたりかも良いことで、配慮するのが大前提という感じになっていますが、役務の提供を受けたならば本来満額市民が支払いをするのが当然で、払えない、負担を軽減しないといけないということ自体がおかしいと考えます。生活インフラなのだから不当に廉価に、“安く”ないといけないというのは間違いで、生活インフラなのだから適正な金額で“高く”ないといけないと思います。 審議会でお示しいただいたケースA、B、Cであげるなら、Aがもっと相応しく、それ以下の選択肢はないと思います。そのためには市民に「将来世代にツケを廻さない」「水道料金は公正妥当であることが決定原則にある」ことを今まで以上にしっかりと説明する必要があると思います。

項目	番号	御意見等
1 資金不足額の補填方法・現世代と将来世代の負担バランス	8	料金値上げを行い企業債への依存を低下させることで、企業債残高対給水収益比率を低下させるべき。 【理由】 ・将来世代は今の意思決定に参加できないので、現世代は長期的観点から料金設定・企業債依存度を決めることが望ましい。 ・現世代が将来世代の利害に配慮しなければ、将来世代の高い利息支払い等、負担増につながり、いずれ大幅な料金値上げに踏み切らざるを得なくなる。 ・大幅な料金値上げは、将来の吹田市移住者の減少、水需要減少、収入減少を招く。
	9	将来世代も現世代も公平にするならケースBが妥当だと思う。
	10	将来に負担を押し付けることはすべきではない。 一方で改修・改善を先送りすれば大きな事故にもなり兼ねない。 本来の都市づくりは、工業地、商業地、住宅に仕分けして、最短距離での配給網を検討すべきではないか・・・。
	11	経年化管路率39.1%、耐震化率26.7%、上町断層帯地震発生時には管路被害約400箇所、被災1日後の断水率63%が想定されている状況を踏まえると、安全で安定した水道サービスを維持するためには、一定の財政基盤強化が必要であることは理解できる。 しかし、この課題は単なる料金改定の是非にとどまるものではなく、吹田市の重要な地域資産である水道施設や管路を適切に維持し、将来世代へ確実に引き継いでいくための投資として捉えるべき課題である。
	12	今回の議論も、単なる料金改定ではなく、老朽化対策、耐震化、災害対応、財政健全性、世代間負担などを含めた総合的な検討となっている。 今後も地域全体の持続可能性という視点から水道事業を位置付け、将来世代へ安全で安定した水道サービスを引き継いでいくことが重要である。
	13	一般に「現世代と将来世代の負担バランス」という表現が用いられるが、将来世代は別の誰かではなく、現在の子どもや若者であり、現在の社会世代も将来は高齢世代となる。水道事業は人生のあらゆる段階で利用される社会基盤であることから、世代間の対立として捉えるのではなく、世代を超えて支え合う視点が求められる。
	14	企業債への過度な依存は将来世代への負担の先送りとなり、一方で現世代のみに負担を集中させることも適切ではない。求められるのは、特定の世代に負担を偏らせることなく、多世代協働の視点のもとで負担と便益を共有しながら、持続可能な水道事業を実現することである。

項目	番号	御意見等
1 資金不足額の補填方法・現世代と将来世代の負担バランス	15	水道事業は現世代だけの課題ではなく、将来世代も含めて支えていくべき公共的な財産として位置付けられるべき。
	16	多世代協働の観点からは、水道事業への市民参加や意見反映のあり方について検討の余地がある。特に、将来その恩恵と負担を担う子どもや若い世代に対して、水道事業の意義や役割を伝え、関心を育む取組が求められる。
	17	企業債と料金改定を適切に組み合わせながら、現世代と将来世代が負担を分かち合う考え方が望ましい。 ケースBは現世代への過度な負担集中と将来世代への過度な負担先送りの双方を回避する方向性を示しており、三つの選択肢の中では最も均衡の取れた案。
	18	今後5年間で約131億円もの資金不足が見込まれている中で、その不足分を企業債、すなわち借金に過度に依存して補うことは、将来世代への負担を大きくすることにつながると考えます。そのため、将来世代への負担をできる限り抑え、現世代も必要な負担を分かち合う方向性として、ケースAのような料金改定の考え方を支持します。
	19	一方で、料金改定だけで対応するのではなく、浄配水施設整備への多額の投資そのものを抑制するための根本的な対策も必要だと思います。人口減少や水需要の変化を踏まえ、施設規模の適正化、更新投資の優先順位付け、将来需要に応じたダウンサイジングなどを進めることが重要です。
	20	また、公共施設・大規模施設・新規開発区域などから段階的に中水道の活用を検討することで、将来的な施設規模の抑制やコスト削減につながる可能性があります。 将来世代にこれ以上の負担を先送りしないためにも、料金改定とあわせて、投資抑制や施設の適正化を含めた経営改善を進めるべきだと思います。
	21	財源確保に向けた取組について、主たる収入である料金収入のほか、現在取り組んでいる小水力発電、有価証券の運用及び用地の活用などに引き続き取り組んでください。
	22	公的補助金の更なる活用について、国や府等へ吹田市のこれまでの取組、現状及び今後の計画などを積極的かつ明確に伝えた上で支援策の充実等の要望に引き続き努めてください。また、総務省が震災等の非常時における水道水の確保の重要性を考慮し、地方財政措置を拡充していることを踏まえ、水道管路耐震化事業について一般会計から基準内繰出しを行うよう関係部署に要望してください。

項目	番号	御意見等
	23	企業債の借入れ規模について、今後も人口減少によって1人当たりの負担額が増加していく中、将来に先送りすることのないように、現世代と将来世代が公平感を感じられるような方向性を持ってください。

項目	番号	御意見等
2 水道料金の配分・生活者と大口使用者の負担バランス	24	基本料金（固定費）割合をあげることで逓増度低減（原価割れの改善）を図るのがあるべき姿であるが、少量区画者の負担増となる。併せて、料金値上げを図った場合には、少量区画の水道使用者の負担がさらに大きくなる。
	25	値上げ幅と逓増度改善をいかにバランスさせるかについては、経営健全化に向け値上げ幅を確保することを優先して考えるべきではないか。 （想定される対応） ・ ケースA（B）＋逓増度現状維持もしくは微減 ・ ケースB＋逓増度低減
	26	結論からケースB'（ダッシュ） 私は水は人が生きてく上で絶対的必要なものだから、料金は安いと言う考えで育ってきました。それは今も変わらないと思いますが、現代の社会情勢から言って（需要家費で人件費も資材も全て上がってる中で）基本料金が安すぎると思う。 項目1でも申し上げましたが、吹田市の人口比率は分かりませんが、江坂中心に企業もあり又梅田へとアクセスも良いので独身者の住む比率が多くなるかと思います。 独身者は中食・トイレ・シャワーくらいしか水は使わない。飲料水は殆どコンビニか自販機のペットボトルで、ひと月10立方迄で使用量が済む生活スタイルかなと勝手に推察してます。 高齢者も殆どの方が年金生活者でそんなに使用量が多いとは考えられない。なので10～多くて20立方だと思うので基本料金を上げたとしてもそんなに生活に影響しないと考えます。 項目1も2も今迄過去2回しか料金の値上げをしてきてないのは立派だと思います。そこを訴えたらどうでしょうか。
	27	逓増度が高いということは、大口使用者ほど単価が高いという仕組みで一般家庭の負担を抑える効果があるということがわかりました。 一方で、事業者の負担が大きくなるため、地域経済への影響も考慮しながらどの程度の逓増度が公平なのかを検討する必要があると考えます。

項目	番号	御意見等
2 水道料金の配分・生活者と大口使用者の負担バランス	28	スライド番号32の「ケースB'、逓増度2.3」にすべきであると思います。 理由1) 月々の増加額が月20立米使用で550円、月30立米使用で750円であり、これは月々の生活費総額を考えると許容範囲内である。 理由2) 基本料金：従量料金＝80：20であるにもかかわらず、様々な理由から平成9年（1997）にその割合を少し手直し、少し修正するどころか真逆の「基本料金：従量料金＝19：81にしたこと」が水道料金体系におけるそもそもの間違いでは。従ってその割合を時間をかけてでも元に割合戻すこと、できるだけ近づけることが本来の水道の料金体系であると考えます。
	29	水道料金にもその料金の1割が消費税として加算されています。消費者としては使用量が増えればもちろん支払額も増えます。 企業債の構造や仕組みについてはとても難解だと思います。しかし納税している限り国からの補助は期待できないのでしょうか。 大口使用者については、使用料金はその企業がして経費として計上し、製品になればそれは消費者負担として跳ね返ってくるのではないのでしょうか。
	30	基本料金割合については、今後大口利用者の水道水利用の減少が見込まれている中、ある程度割合を増やしていくのが適切だと考えます。ただ、逓増料金制自体は水道料金が2部料金制とはいえ、個人的には公平性の観点からも沢山使っている分、恩恵も大きいという視点で合理的だと感じており、ある程度残すべきだと思います。やはり、水道行政は商売ではないので、根本は事業所など大口利用者よりも市民を柱において考えるべきだと考えます。
	31	基本料金の割合を高め、逓増度を下げるべき。 【理由】 ・基本料金の割合を高めることで、将来予想される水道需要減少による収入減少に備えることができる。 ・逓増料金は、大口需要者の需要を減少させ、収入減につながる。 ・逓増料金は、大口需要者から小口需要者に対する所得再分配を行っているに等しく、水道事業が所得再分配機能を担う根拠は定かでない。 ・仮に根拠があっても、貧しい大口もいれば豊かな小口もいるはずで、水道料金での所得再分配は望ましくない。
	32	これからの人口減少を想定すると基本料金の値上げはやむを得ないと思う。

項目	番号	御意見等
2 水道料金の配分・生活者と大口使用者の負担バランス	3 3	使用量ではなく、使用目的で分類できるか検討すべきではないのでしょうか？ 例えば、今後、市への入居者を増加させられるか否か、雇用を増加させられるか否かでの判断は不可でしょうか？
	3 4	人口減少や節水機器の普及に伴う給水量の減少を踏まえると、安定的な事業運営の観点から 基本料金割合を一定程度引き上げる方向性は妥当であると考えます。ただし、水道は市民生活を支える基礎的インフラであることから、生活に必要な最低限の水利用への配慮は維持されるべきであり、料金改定は単身世帯や高齢者世帯への影響にも配慮しながら段階的に進めることが望ましい。
	3 5	水道料金の議論は負担配分だけでなく、水資源をどのように持続的に管理していくかという視点から検討することが重要である。全国には地下水保全や水源涵養を目的とした受益者負担の事例も見られる。吹田市において直ちに導入を検討すべきものではないが、将来的には地下水利用や下水道事業も含めた統合的水資源管理のあり方について研究を進めることが望ましい。
	3 6	生活用水への配慮を維持しつつ、給水量減少の影響を受けにくい料金体系へ移行するため、基本料金割合を一定程度引き上げることが適当であると考えます。その際には、生活者・事業者・将来世代の負担の公平性を総合的に考慮することが重要である。
	3 7	現在、使用者の約79%を占める小口使用者を中心に、原価を下回る料金負担となっており、大口使用者に過度に依存している料金構造は、受益者負担の公平性や水道事業の持続性の観点から課題が大きいと考えます。
	3 8	また、水道事業費用の約8割が施設の維持管理や更新などの固定費であるにもかかわらず、基本料金の割合が低い現状は、経営を不安定にする要因になっていると思います。水道は使用水量が減少しても、浄水場・配水池・水道管などの施設を維持するための費用が大きく減るわけではありません。そのため、使用量に応じた従量料金だけでなく、基本料金を通じて固定費を広く公平に負担し合う構造へ見直すことが必要だと思います。
	3 9	もちろん、急激な負担増によって市民生活に大きな影響が出ないように配慮する必要がありますが、将来にわたって安全で安定した水道インフラを維持するためには、基本料金の割合をしっかりと引き上げ、原価や利用実態に応じた公平な料金体系へ段階的に移行すべきだと考えます。その上で、インフラを確実に維持し、将来世代への負担を抑えるために必要であれば、ケースAを基本としつつも、ケースA以上の改定率についても選択肢から排除せず、慎重に検討することが望ましいと思います。

項目	番号	御意見等
	4 0	日水協・料金算定要領を参考に「均一料金制」や「固定費に見合った基本料金の設定」を将来的に目指す方向性のもと、逡増度緩和及び基本料金割合の増加を検討してください。
	4 1	その場合、急激な料金値上げとなってしまうことが想定されるため、生活者への配慮を十分に行った上で、大口使用者との負担のバランスについても考慮が必要と考えます。

項目	番号	御意見等
その他	4 2	電気・ガス事業と水道事業の違いを市民に理解いただくこと 電気・ガスは燃料費変動に対応する料金体系で、価格高騰に対する支援・補助も実施されるが、水道事業は一部の資金補助はあるが、自身の経営努力で対応しなければならないのが基本。
	4 3	料金改定に対するスタンス ・ 中小水道事業体の事業経営が危機的状況にある中、水道料金改定のハードルは非常に高く、必要十分な値上げをやりたくてもできない事業体がほとんど。 ・ 吹田市は、施設整備・広域化・料金改定実施など、水道事業経営の健全化に向けた取り組みを積極的に進めてきていると評価している。 ・ 府内事業体の平均改定率が10～20%で推移している中、20%を超える大幅な値上げは市民の同意が得られないかもしれない。しかしながら、持続性確保の観点を踏まえ、将来世代に配慮した水道事業経営に向き合う姿勢を、市民の方々に訴えかけていくことが、事業経営を担う立場としては必要ではないか。 ・ 料金水準のみで他市比較されないよう取組状況をしっかりPRすべき。
	4 4	他の事業体との比較と言っても、吹田市は千里ニュータウンを抱えてますし、水質も他所とは違いますのでよく分かりません。 以前一度申しましたがすいたの水として売り出すのはどうでしょうかと言う質問させて頂きました。 委員会が終わった後に職員の方から「昔に販売してたけど売れなかった」とお聞きしました。 今程水は買って飲むものだという意識もなかったでしょうし、皆さんがすいたの水を売ってるのも知らない方が多かったのではと思います。 私事で恐縮ですがノーラベルの1.8リットルの6本入りを388円で買ってます。偶に多かったり少なかったりもありますが、値段を考えたらと気にもしてません。 ナフサ由来のペットボトルの値段も上がってるかも分かりませんが、今はコマーシャルの仕方も色んな方法がありますし、市民の皆様は吹田の水を認知して頂き、買って頂く コストをかけずに売れたら、少しでも財源確保に繋がるのではと主婦の浅知恵です。 日本は蛇口をひねれば飲める水が出てくるし、下水管を伝ってネズミが出てくるわけでは無いし、最高に恵まれた水の王国だと思います。
	4 5	「水道いどばた会議」や「すいどうにゅーす」などは水道事業について一般の方々にもよくわかる内容になっていると思います。 水道事業の周知にご尽力されていると思います。 もっと知ってもらいたいです。

項目	番号	御意見等
その他	4 6	水道料金については、公平かつ明快であるべきで低所得者への配慮は福祉の政策などで支援すべきであると思います。
	4 7	独立採算制である以上、ある意味企業であると思います。 適正な原価を基礎とし、健全な運営、経費や人件費の出費についても常に適正であり、採算に務める努力があると考えます。
	4 8	年2回発行の「すいどうにゅーす」にて、水道の啓蒙、様々な知識、知恵および吹田市水道部の地道な取り組み等を広報されていることを初めて知りました。 全ての住民が、「すいどうにゅーす」を表紙から最後のページまで目を通すとは限りません。しかしながら「使用水量・料金等のお知らせ」は家計を預かる大部分の人がキッチリと目を通すと思います。そこで「水道豆知識」のような内容を「使用水量・料金等のお知らせ」の余白に一行、二行程度で載せれば、水道について関心を持ってもらえるのではと思いました。
	4 9	健康的、衛生的な生活が送れるのは水道が潤沢に供給されているからだと思っています。 栓をひねれば即供給されるその便利さを思い、災害にも強い水道設備の早急な必要性につき、そしてこの目まぐるしく変わっていく世界情勢を鑑み、水道料金は値上げせざるを得ないとは思いますが。 しかし当世の物価上昇の激しさを思うと、値上げ率は最小限に抑えて欲しいです。
	5 0	他事業体との比較については、地域によって置かれている環境も、水道事業における経営志向も様々なため、全く気にしなくて良いと思います。 吹田市の水道事業については審議会などを通して、維持管理も適切に行われ、健全経営、未来志向の経営がされていると感じました。そのため、他事業体と比べて高くなっても仕方がないし、今までが適正料金ではなく安かっただけだと思いますし、垂水神社も鎮座する吹田市には我が道を進んでほしいと思います。
	5 1	経費節減については、更なるAIの活用などによって水道管の更新工事などにおいて工事費の削減を図るとともに、水道部において技術の継承を途切れさせないことが大切と考えます。
	5 2	広報についてはフューチャー・デザインを活用して水道事業のあり方を市民に考えてもらうなどの機会をさらに増やしてもらえたらと思いました。

項目	番号	御意見等
その他	53	最後に取り留めもなく個人的な意見を申し上げると、将来的に水道事業が適正に運営されずに安全な水道水が出なくなったり、地震で長期間断水してしまうことが一番困ります。 水道事業を守っていくためにも客観的なデータに基づき、市民への忖度なしに適正な料金値上げをして頂きたいと思います。
	54	水道事業について無知であったが、毎回分かりやすい資料を作成していただいたと思います。
	55	水道部出身の市長自ら審議会に参加・発言され、職員の代わりに委員からの質問に回答されるなど、健全経営の持続性に対する熱意を感じました。
	56	料金値上げに向けてとても重要なことは市民の理解。水道いどばた会議をはじめ、様々な取り組みをされていると思います。大阪学院大学の学園祭で、ゼミ生と水道部が共同で模擬店を出店していたのには驚きました。
	57	近年、老朽化による水道管破裂の事故が頻繁になり、事前の入れ替えが急務になっていると認識が広がっていると思う。 すいどうにゅーすや市報で値上げについて周知させることで、理解は得られると思う。
	58	吹田市の水道料金は安いと思う。料金が高いという人がいるがそんなことはない。
	59	老朽管更新に対応するため料金を上げてよいと思う。
	60	品質向上。
	61	水質が悪くペットボトル水を購入するのは致し方がないと思うが、水道の水質はよい。
	62	適正な価格にすべき。
	63	吹田市水道事業は、これまで効率的な経営努力により、全国や類似団体と比較して一定の経営水準を維持してきた。しかし、今後は給水収益の減少が見込まれる一方で、老朽施設や管路の更新、耐震化への投資需要は増加することから、料金改定のみならず、多角的な視点から持続可能な事業運営を検討していく必要がある。

項目	番号	御意見等
その他	6 4	経費削減については、施設の統廃合や更新時期の最適化、DXの活用、省エネルギー化などを進めることが重要である。一方で、水道事業の根幹は人材と技術力にある。安全で安定した水道サービスは長年にわたり培われた技術者の知識と経験によって支えられており、単純な人件費削減による経営改善には限界がある。将来世代へ安全な水道を引き継ぐためにも、人材育成と技術継承を重視した持続可能な経営が必要である。
	6 5	財源確保については、水道料金収入だけでなく、水資源管理全体の視点から検討することも重要である。大口使用者への負担を過度に求めると地下水利用への転換を促し、水道事業の収入基盤を弱める可能性がある。 海外の事例として、上水道、下水道、地下水、河川を一体的に管理する「統合的水資源管理」の考え方が進んでおり、水利用と排水を含めた受益と負担のバランスが重視されている。吹田市においても、将来的には水循環全体の視点から、持続可能な財源確保や受益者負担のあり方について研究を進めることが望ましい。
	6 6	広報については、料金改定の必要性だけでなく、老朽施設の更新や災害対策、将来世代への投資であることを市民にわかりやすく継続的に説明することが重要である。
	6 7	地域の水は単なる商品ではなく、市民生活や地域経済を支える公共的な地域資源である。したがって、財源確保や料金制度についても、短期的な収支均衡だけでなく、水資源の保全と持続可能な利用、世代間公平性という長期的な視点から検討されるべきである。
	6 8	日本の水道事情は、世界的に見ても非常に高い水準にあると思います。蛇口をひねれば安全で高品質な飲料水がいつでも使える環境は、決して当たり前ものではありません。 そのため、水道料金の妥当性を評価・審議する際には、単に日本国内の市町村間だけで比較するのではなく、海外における水道料金や飲料水の供給状況、サービス水準とも比較して示すことが有効だと思います。特に、海外の水道料金を比較する場合には、物価水準・所得水準・飲用可能性・断水リスク・維持管理水準なども踏まえて説明することで、日本の水道サービスの価値がより分かりやすくなると思います。 海外の事例と比較することで、日本の安全で安定した水道インフラがいかに貴重であるかが明確になり、維持のために必要な適正な料金負担について、市民の理解や納得感も得られやすくなるのではないかと考えます。

項目	番号	御意見等
その他	69	水道事業の財政が厳しくなり、無理な経費削減や発注単価の切り詰めが行われれば、工事を請け負う地域企業や現場の担い手に直接的なしわ寄せが生じると考えます。 現在でも、建設業界や設備工事業界では、職人不足や現場管理者不足が深刻化しています。その中で、現場に適切な利益が還元される発注が維持されなければ、企業の経営が不安定になり、技術者の確保や育成、技術継承が難しくなるおそれがあります。 水道インフラは、施設そのものだけでなく、それを維持管理し、緊急時に対応できる人材と地域企業によって支えられています。このまま担い手不足が進めば、日常的な水道管破裂や漏水などへの迅速な対応が困難になるだけでなく、大規模災害時の復旧にも大きな支障が生じる可能性があります。結果として、市民生活を支える重要なライフラインの安定性が損なわれるおそれがあります。
	70	また、原価に見合わない低い水道料金のまま事業を継続し、国内や地域内のインフラ維持体制が弱体化すれば、将来的に日本の高品質な水道インフラを自律的に維持することが難しくなり、外部依存が高まる可能性もあると考えます。 このような未来を避けるためにも、水道事業の収支を健全化させ、安定した経営基盤を確立するとともに、官民が連携して人材不足の解消、技術者の育成、地域企業の維持に取り組むべきだと思います。
	71	蛇口をひねれば当たり前のように安全な飲料水が出る日本の環境が、どれほど貴重なものであるかを、市民に対してもっと丁寧に周知・啓発していくことが重要だと考えます。水道料金の改定は市民生活に直結するため負担感が生じることは避けられませんが、市民が水道の価値や施設維持に必要な費用、人材確保の重要性を正しく理解してこそ、適正な料金負担への納得感も得られるのではないかと思います。
	72	一方で、市民の理解や適正な負担への合意を得る努力を尽くしても、必要な料金改定が困難である場合には、中水道や再利用水の本格的な導入、施設規模の見直し、サービス水準の整理なども含めて、より踏み込んだ構造改革を検討すべきだと思います。料金改定とサービス水準の見直しを一体的に考え、将来にわたって必要な維持更新を継続できる財政基盤を確立することが重要です。
	73	現在の深刻な資金不足やインフラ更新の課題は、これまで長年にわたり必要な料金改定や構造改革を先送りしてきた結果でもあると思います。行政はこの点を重く受け止め、料金体系の見直し・施設投資の適正化・人材確保・地域企業の維持・市民への丁寧な説明を一体的に進めるべきだと考えます。

項目	番号	御意見等
その他	74	将来世代への過度な負担を避け、安全で安定した水道インフラを次の世代へ引き継ぐために、現実的な料金改定と構造改革について、引き続き丁寧に検討を進めていただきたいと思います。
	75	すいすいビジョン2035に示された事業の推進と目標の達成に向けてしっかりと取り組んでください。また、そのために必要な料金水準の適正化に取り組んでください。
	76	水道事業経営の持続可能性の確保とそのための料金改定の必要性について、市民に分かりやすく説明できるように努めてください。